

感激 山響団員と合奏

指定障害児通所支援事業所「音楽なかまプリモ」に通う子どもたちと、山形交響楽団のメンバーによるコラボコンサートが27日、山形市のやまぎん県民ホールで開かれた。

単音ずつ独立した楽器「一音木琴あるも」を使った子どもたちとプロの弦楽奏者が優しい音色を響かせた。

音楽なかまプリモを運営する認定NPO法人アシエンタやまがた（児玉千賀子代表理事）では子どもたちの可能性を広げようと、音楽による療育レッスンを実施。一音木琴あるもは同法人が開発した木琴で、単音ごとに独立しているため1音ずつ使用でき、子どもの理解に合わせた使い方や組み合わせが自由にできる。音階ごとに彩色も区別。い

山形「プリモ」の児童生徒「一音木琴」使い



ろんな子どもたちが個々にあった形で演奏を楽しむことができる。

コラボコンサートはやまがた文化の回廊フェスティバルの一環で開催。音楽な

かまプリモに通う小中高生18人と、山響のメンバー4人が出演し、「アベマリア」や「ボレロ」など4曲を奏でた。プロとの共演は初めてで緊張した面持ちだった子どもたちも、演奏後には拍手を送られ、充実した表情を浮かべていた。児玉代

表理事は「この日のために3カ月間、練習してきた成果が発揮でき、一番いい演奏になった」と話していた。一音木琴を体験できるワークショップも開かれ、子どもたちが合奏する楽しさに触れた。

(伊藤律子)



子どもたちが山形交響楽団のメンバーと共演したコンサート①ワークショップで「一音木琴あるも」を体験する子どもたち

山形市・やまぎん県民ホール